

# 環境活動レポート

## 2010年度

2010年 5月 1日～2011年 4月30日



**For the beauty of the earth**  
**For a dynamic and attractive society**



**日本化学機械製造株式会社**

発行 2011年 6月 30日 (環境月間)

## 環境方針

私たち一人ひとは、社是に徹し当社の基本理念である  
美しい地球 生き活きとした社会のために  
経営方針の下、ここに環境方針を定め、行動することを宣言します。

社是 『誠心誠意』 『感謝の奉仕』

### 基本理念

*For the beauty of the earth*  
*For a dynamic and attractive society*

美しい地球 生き活きとした社会  
それらが調和し持続し発展するために  
役立つ 技術 と 人材 を提供します

### 環境方針

全ての人々が健康に生き活きと生きる事ができる社会は、豊かな自然と健全な環境の上に成り立っています。

地球環境が保全され、限り有る資源と多様性に富む生物を将来に引き継いでいける持続可能な社会を構築するために、環境について考え、行動することは、21世紀を生きる人類のそして経済社会を営む企業の責務であると強く認識します。

私たち日本化学機械製造株式会社は、事業活動における環境負荷の低減を図るために、次の行動指針に定める環境保全活動を推進します。

〈環境保全への行動指針〉

1. 以下について、環境目標・活動計画を定めて、継続的な改善に努めます。
  - (1) 電力・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量削減
  - (2) 節水推進
  - (3) 廃棄物排出抑制、リサイクルと適正処理の推進
  - (4) 環境に有害な化学物質使用量の削減と管理の推進
  - (5) 製品における環境配慮の促進
  - (6) グリーン購入の促進
2. 環境関連法規や当社が約束したことを順守します。
3. 環境への取り組みを活動レポートとして公表します。

制定日 2007年 12月 10日  
改定日 2010年 5月 1日  
日本化学機械製造株式会社  
代表取締役社長

高橋 正一



## 組織の概要

(1) 事業者名及び代表者名

日本化学機械製造株式会社 全社  
代表取締役社長 高橋 正一

(2) 全組織所在地

本社・工場 : 大阪府大阪市淀川区加島4-6-23  
 南山田工場 : 滋賀県湖南市岩根字南山田1662番5  
 滋賀工場 : 滋賀県湖南市大池町7番地1  
 東京営業所 : 東京都中央区京橋1丁目6番12号(京橋イーサスビル5F)



(3) 活動対象組織と活動期間

全組織 : 2010年 5月 ~ 2011年 4月  
 ※本社・工場2008年8月認証・登録、2010年8月 全組織に、認証・登録拡大

(4) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

全社環境管理責任者 取締役製造部長 宇山 正彦  
 全社環境事務局 開発技術室 中嶋 幹恵  
 技術部 海瀬 卓也

各サイト環境管理責任者	本社・工場	滋賀工場	南山田工場	東京営業所
環境管理責任者	取締役製造部長 宇山 正彦		工場統括 浅野 宣男	取締役営業所長 香山 伊平
連絡先 TEL	06-6308-3881	0748-75-2131	0748-72-3007	03-3567-8101

(5) 事業の内容

化学機械・化学装置・燃焼装置・超低温液化ガス機器の設計、製作、販売

(6) 適用ガイドライン

エコアクション21 ガイドライン 2009年版

(7) 事業の規模

- 1) 創業 1939年
- 2) 資本金 275百万円
- 3) 売上高の推移

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
64.5億円	61.3億円	88.9億円	82.7億円	69.1億円

(8) 各サイトの概要

サイト	本社・工場	南山田工場	滋賀工場 <sup>※1</sup>	東京営業所 <sup>※2</sup>
従業員数	162名	26名	0名	6名
敷地面積	21,685m <sup>2</sup>	3,727m <sup>2</sup>	27,229m <sup>2</sup>	賃貸事務所
工場床面積	6,578m <sup>2</sup>	1,901m <sup>2</sup>	5,024m <sup>2</sup>	
事務所等床面積	3,025m <sup>2</sup>	214m <sup>2</sup>	0m <sup>2</sup>	

※1 滋賀工場は、常勤者は不在で、スポット的に当社開発製品等の試験や南山田工場の資材倉庫として使用しています。

※2 東京営業所は、賃貸事務所です。

(9) 事業概要

当社は、アルコール蒸留装置の設計・製作を創業の原点として70年以上に亘り操業を続けており、現在では、アルコール蒸留のみならず化学・食品・医薬工業界様向けに、広く化学機械や化学プラントをご提供しています。最近では、70年の歴史によって培った設計・製造技術と豊富な経験を駆使して、バイオエタノール製造プラントや太陽光発電に供される原料製造プラントの建設などにも携わりました。

また、当社独自の蒸留技術を活かした廃溶剤回収プラント、環境負荷物質の回収装置、脱臭設備などもご下命頂いており、これらの製品を通じて環境改善に貢献しております。



# 1. 主な環境負荷の実績

## 1-1. 各サイト別環境負荷の実績

当社の各サイトにおける環境負荷の実績を【表-1-1】に、また、当社の総排出量に対する各サイトの負荷割合を【図-1-1-1】～【図-1-1-5】に示します。

当社が排出する二酸化炭素量(以下、CO<sub>2</sub>)の約55%、総排水量の約65%、一般廃棄物の約20%、産業廃棄物の約95%が本社・工場サイトからのものです。

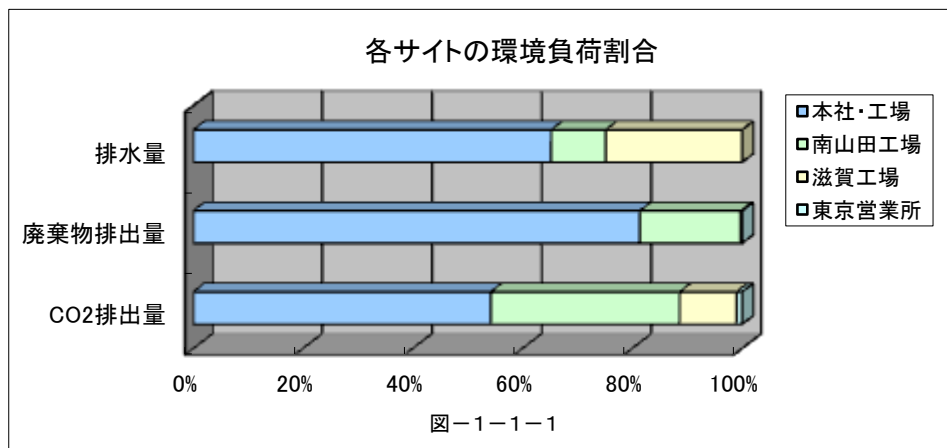
【表-1-1】各サイトにおける環境負荷の実績 2010年5月～2011年4月

環境負荷項目	単位	本社・工場	南山田工場	滋賀工場 <sup>※1</sup>	東京営業所 <sup>※2</sup>	全社
CO <sub>2</sub> 排出量	kg/年	357,087	226,765	68,171	6,490	658,513
一般廃棄物排出量	ton/年	3.6	16.5	0	0.3	20.4
産業廃棄物排出量	ton/年	95.3	5.8	0	0	101.1
総排水量	m <sup>3</sup> /年	8,408	1,280	3,199	-	12,887

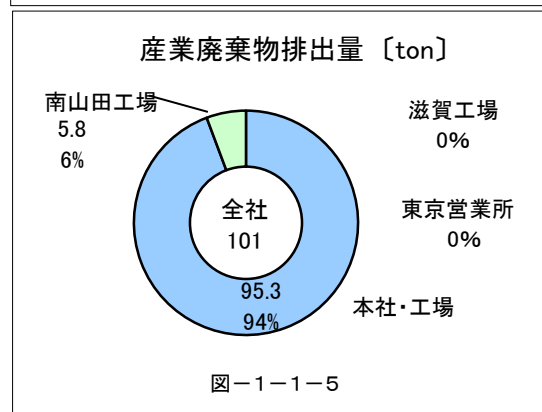
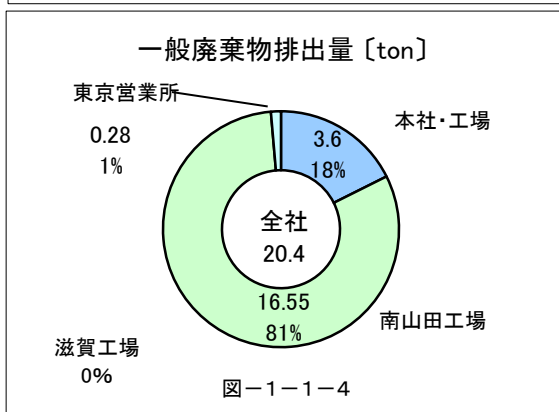
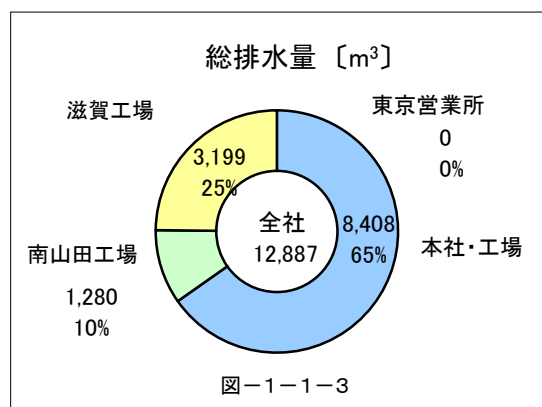
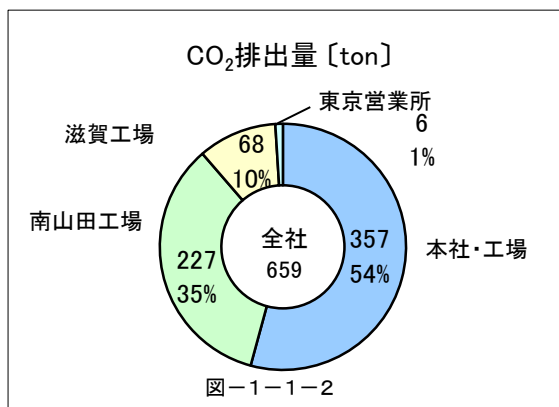
※1 滋賀工場では、常勤者も不在のため廃棄物は発生しません。

工業用水配管にトラブルがあり水の漏えいがありました。(是正済)

※2 東京営業所では、水道料金が共益費に含まれているため使用量は把握できません。



環境負荷 サイト	CO <sub>2</sub>	一般廃棄物	産業廃棄物	水使用量
本社・工場	54%	18%	94%	65%
南山田工場	34%	81%	6%	10%
滋賀工場	10%	0%	0%	25%
東京営業所	1%	1%	0%	不明



## 1-2. 各環境負荷の内訳

### (1) CO<sub>2</sub>排出量

各サイトにおけるCO<sub>2</sub>の主な排出源を【表-1-2】に示します。

また、当社の二酸化炭素総排出量の約55%を占める本社・工場と約35%を占める南山田工場における排出源の割合を【図-1-2-1】及び【図-1-2-2】に示します。

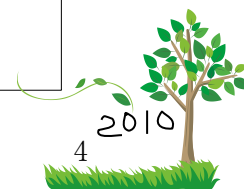
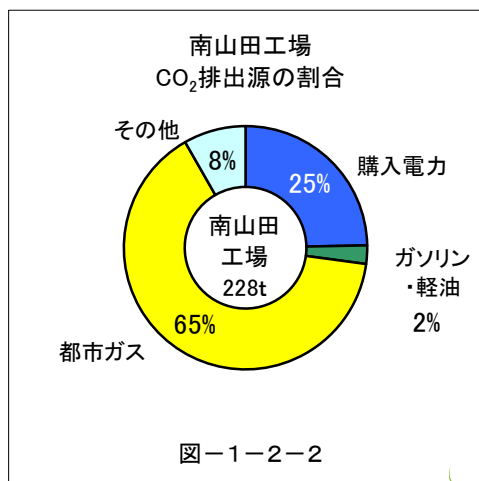
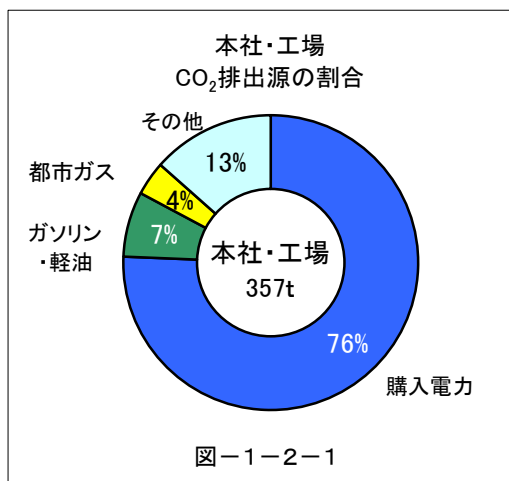
本社・工場では、76%が購入電力、7%が自動車燃料であるガソリン・軽油による排出です。南山田工場では、超低温液化ガス容器の製作過程で都市ガスを熱源とする乾燥炉を使用しているため、都市ガスによる排出が65%と多くなっています。

【表-1-2】

[単位:kg/年]

CO <sub>2</sub> 排出源	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
購入電力 <sup>※1</sup>	270,142	55,988	68,171	6,490	400,791
ガソリン・軽油	25,549	5,554	0	0	31,103
都市ガス	13,348	146,479	0	0	159,827
その他	48,048	18,744	0	0	66,792
合計	357,087	226,765	68,171	6,490	658,513

※1 CO<sub>2</sub>排出係数: 各サイトとも 0.000378 t-CO<sub>2</sub>/kwh

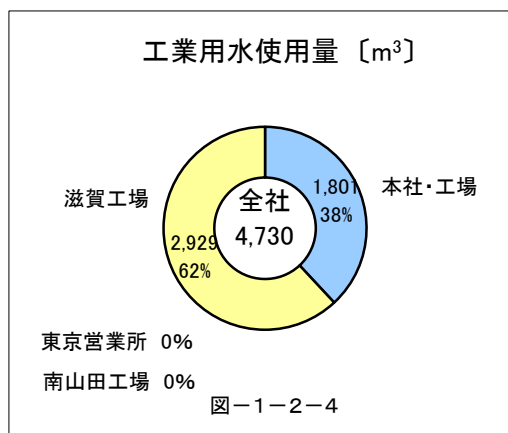
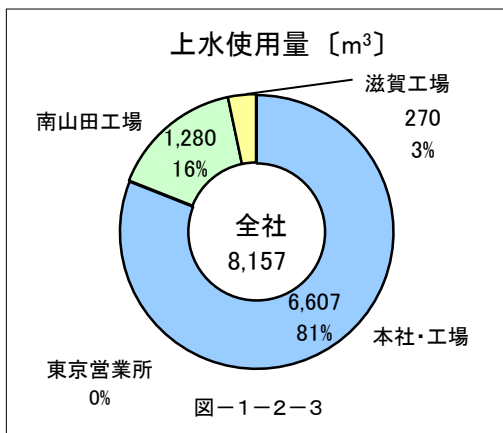


(2) 総排水量 (ton/年)

各サイトにおける排水区分ごとの実績を、【表-1-3】に示します。  
 また、総排水量に対する各サイトの排水割合を、【図-1-2-3】及び【図-1-2-4】に示します。  
 なお、当社の場合、使用量を排水量としています。

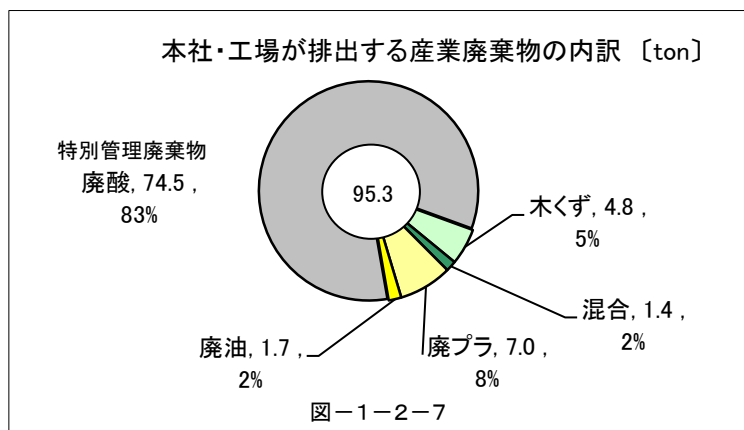
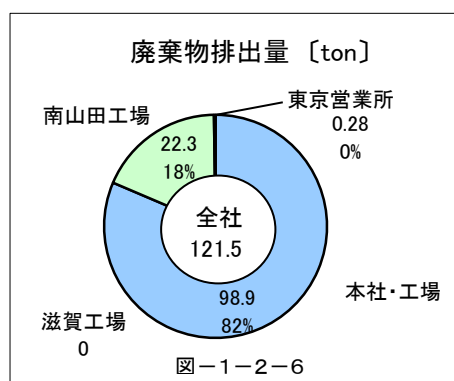
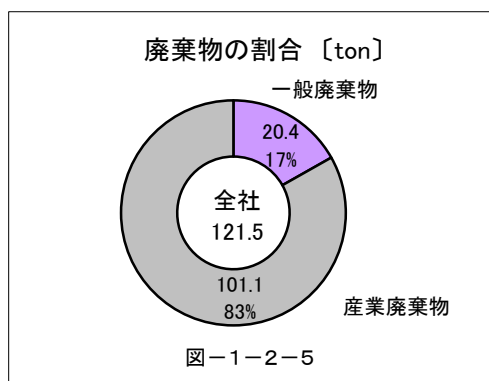
【表-1-3】 [単位:m<sup>3</sup>/年]

排水の区分	本社・工場	南山田工場	滋賀工場	東京営業所	全社
上水	6,607	1,280	270	—	8,157
工業用水	1,801	0	2,929	0	4,730
合計	8,408	1,280	3,199	0	12,887



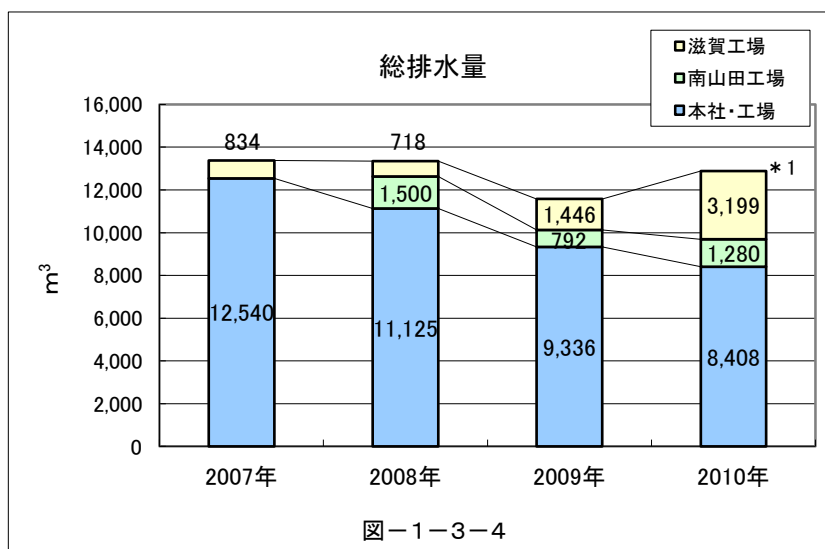
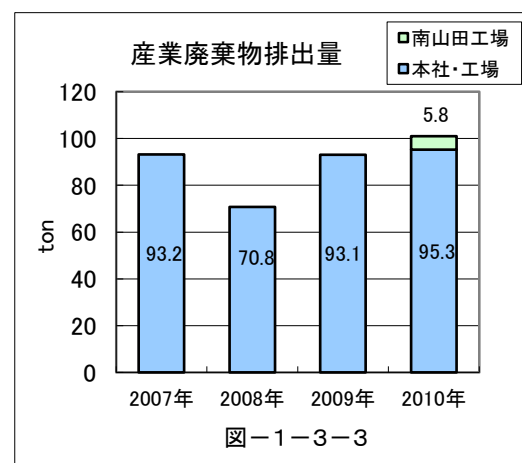
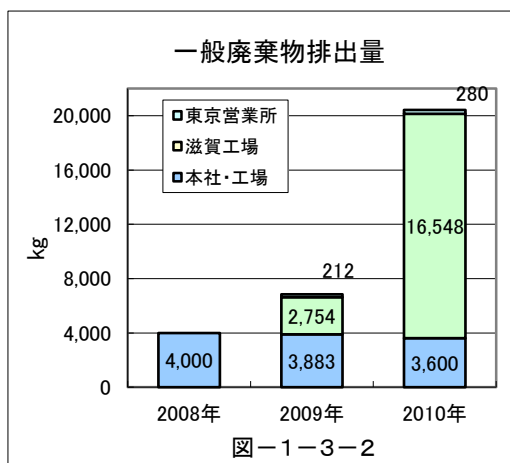
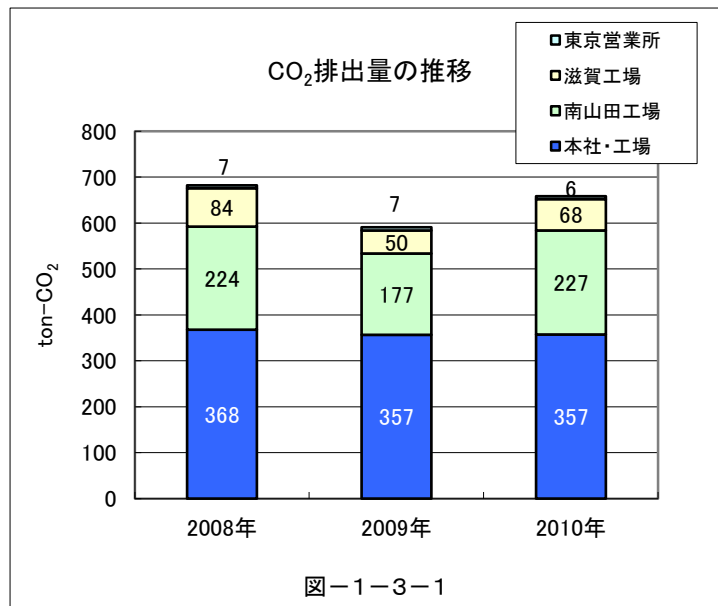
(3) 廃棄物排出量 (ton/年)

全社における一般廃棄物と産業廃棄物の排出割合を【図-1-2-5】に、各サイトごとの一般廃棄物と産業廃棄物の合計排出量の実績を【図-1-2-6】に示します。  
 廃棄物総排出量の約80%は、本社・工場から排出されています。  
 また、廃棄物総排出量の約80%は産業廃棄物で、その多くが本社・工場から排出されており、その内訳を【図-1-2-7】に示します。  
 特別管理産業廃棄物の100%を占める廃酸は、本社・工場で作成するステンレス製機器の洗浄工程より排出される洗浄廃液で、その99.8%は水です。



### 1-3. 年度ごとの推移

主な環境負荷の年度ごとの実績の推移を、【図-1-3-1】～【図-1-3-4】に示します。本社・工場を除く各サイトでは、活動開始時期の関係上、2008年度以前のデータについては把握できていないものがあります。



\* 1: 2010年度滋賀工場の工水配管にトラブルがあり、水が漏えいしました。原因を究明し、修理を行いました。



## 2. 環境目標及びその実績

### 2-1. 本社・工場

当社では、主な環境負荷の大半を排出する本社・工場を、環境側面における最重要サイトと位置付け、2008年より環境活動に取り組んでいます。

本社・工場では、【表-2-1】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。

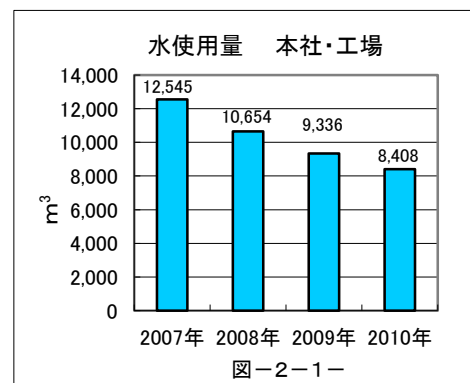
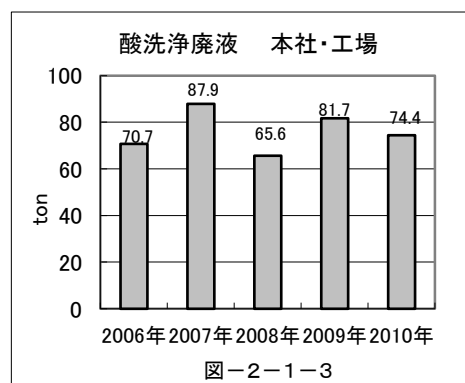
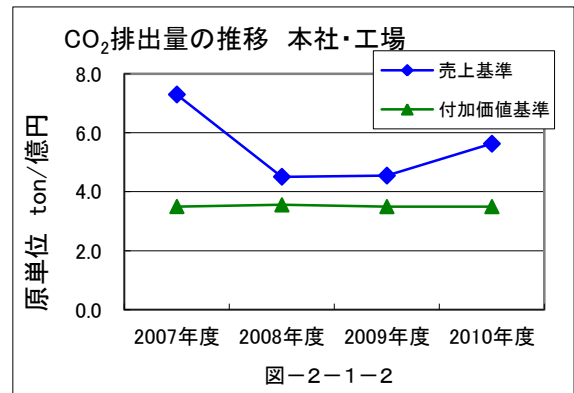
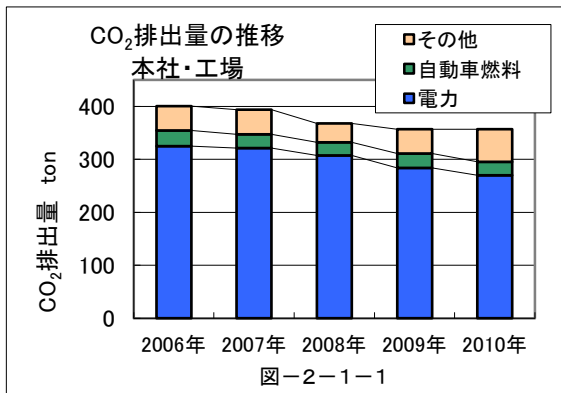
同表に、2010年度の活動実績を、2006年度または2007年度を基準値とする項目については、年度ごとの推移を【図-2-1-1】～【図-2-1-4】に示します。

【表-2-1】 本社工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2010年 (2010年5月～2011年4月)		2011年	2012年
			目標	実績	目標	目標
CO <sub>2</sub> 削減 <sup>※1</sup> [電力]	ton-CO <sub>2</sub>	(2006年) 325	△13.5%	△17%	△15%	△15.5%
CO <sub>2</sub> 削減 [自動車燃料]	ton-CO <sub>2</sub>	(2006年) 29.9	△5%	△15%	△6%	△7%
一般廃棄物削減	kg	(2008年) 4,000	△3%	△12%	△4%→2009△1%	△5%→2009△2%
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 5,257	△3%	△2%	△4%	△5%
産業廃棄物削減 [廃酸(酸洗浄廃液)]	ton	(2006年) 70.7	△4%	+5%	△5%	△6%
[廃プラスチック]	kg	(2008年) 968	△22%	△22%	△24%	△25%
節水	m <sup>3</sup>	(2007年) 12,545	△26%	△33%	△27%	△28%
化学物質使用量の 削減 <sup>※2</sup>	L	(2009年) 240	△6.7%	△20%	△13.3%	△20.3%
製品における環境配慮の促進 スコアカード 受注件数	-	(2009年) -	73点以上	73以上/80% AVE78	75点以上 11件	75点以上 12件
グリーン購入	-	-	・電気自動車	・ユニフォーム	1品目増加	2品目増加

※1 本社・工場では、総排出量の76%が電力、7%が自動車燃料(ガソリン+軽油)につき、これらについて削減目標を設定しています。

※2 当社には、化学物質を原料とする製品はありません。





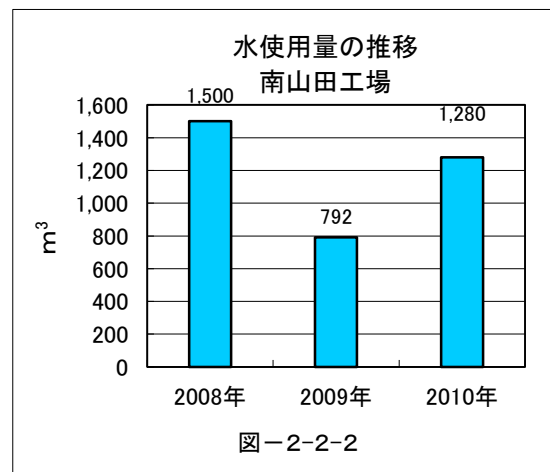
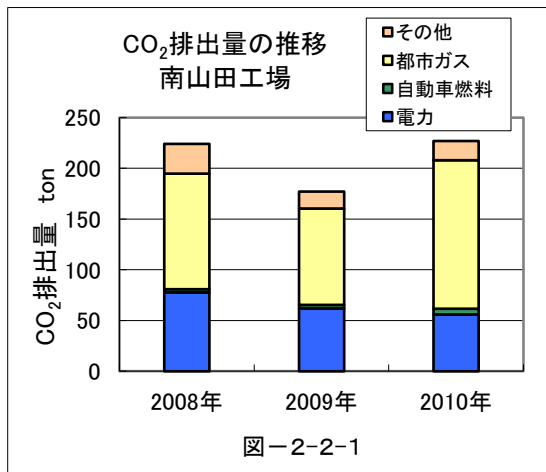
## 2-2. 南山田工場

南山田工場では、【表-2-2】に掲げる項目について環境目標を設定し、活動を展開しています。CO<sub>2</sub>排出源は、現状では都市ガスが最大ですが、環境目標設定項目は本社・工場に合わせています。年度ごとの推移を【図-2-2-1】～【図-2-2-2】に示します。

【表-2-2】 南山田工場の環境目標及びその実績

項目	年度	(基準年度) 基準値	2010年 (2010年5月～2011年4月)		2011年	2012年
			目標	実績	目標	目標
CO <sub>2</sub> 削減 [電力]	ton-CO <sub>2</sub>	(2008年) 77.7	△3%	△28%	△4%	△5%
CO <sub>2</sub> 削減 [自動車燃料]	ton-CO <sub>2</sub>	(2008年) 6.31	△3%	△13%	△5%	△6%
CO <sub>2</sub> 削減 [都市ガス]	ton-CO <sub>2</sub>	(2008年) 113.66	△3%	+29%	△3%	△4%
一般廃棄物削減	kg	(2009年 <sup>※1</sup> ) 2,719	△2%	通常3,348(+26%) 臨時13,200	△2%	△3%
コピー紙使用量削減	kg	(2008年) 301	△3%	△13%	△4%	△5%
産業廃棄物削減 [廃プラスチック]	kg	(2009年 <sup>※1</sup> ) 34.8	△2%	+38%	△3%	△4%
節水	m <sup>3</sup>	(2008年) 1,500	△3%	△15%	△4%	△5%
化学物質管理の徹底	MSDSの使用を収集・整備→習慣化 把握・記録・管理		保管場所・表示の徹底 パトロールの実施			
製品における環境配慮の促進	製品出荷梱包材の配慮		梱包資材・方法の調査			

※1 2009年度基準値は、1月～4月の実績値の年換算値



## 2-3. 東京営業所

東京営業所は所員6名で、当社における環境負荷に割合も極めて低いことから、身近な環境活動として、2010年2月から一般廃棄物とコピー紙の削減に取り組んでいます。

## 2-4. 滋賀工場

常勤者が不在につき、環境側面の管理は本社が担っています。



### 3. 環境活動の評価

3-1. 本社・工場

勝率(目標達成率) 0.8 8勝2敗 (10項目中 2項目未達)

主な取組み計画 〔 〕内、今年度新たな取組み		達成状況		評価(結果と今後の取組み)		
二酸化炭素排出量削減	<b>電力の削減</b> ・不要照明の消灯 ・空調設備の点検 ・デマンド監視システム運用 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減 ・クール/ウォームピズ推進 〔・太陽光発電の安定運転〕 ・OA機器の省電力化検討 ・工場照明の省エネ化 ・省エネ家電・電気機器への更新	○	基準値	325.0 ton-CO <sub>2</sub>	目標達成	
		○	目標値	281.0 ton-CO <sub>2</sub>	2007年度に活動開始後、継続して目標を達成しており、今年度も削減目標値を3ポイント上回る成果を上げた。 デマンド監視システムの運用、2010年1月から稼働した太陽光発電の安定運転、工場照明約半数を省エネ型に転換、省エネ機器への計画的更新が大きく寄与したと推定。 今後は、従来の各取組みに加え、昨今の電力事情及び将来の動向を勘案し、そもそも「電気を使わない」を基本とした取組を推進する。	
		◎	削減比	-13.5%		
		○	実績値	270.1 ton-CO <sub>2</sub>		
		○	削減比	-17%		
		○	-	-		
		◎	-	-		
		△	-	-		
		◎	-	-		
		◎	-	-		
◎	-	-				
二酸化炭素排出量削減	<b>自動車燃料の削減</b> ・エコドライブ運動展開 ・車両定期点検の実施 ・公共機関の利用促進 E3・バイオガソリンの給油促進 〔電気自動車の導入〕	◎	基準値	29.9 ton-CO <sub>2</sub>	目標達成	
		◎	目標値	28.4 ton-CO <sub>2</sub>	電力同様活動開始後、継続して目標を達成している。ハイブリッド車に続いて、今年度は電気自動車を導入した効果も大きいと推定するが、日々の車両点検やエコドライブ運動の浸透が成果を上げていると推定しており、今後も重点取組みとする。	
		◎	削減比	-5%		
		○	実績値	25.5 ton-CO <sub>2</sub>		
		○	削減比	-15%		
◎	-	-				
廃棄物排出量削減	<b>一般廃棄物の削減とリサイクルの促進</b> ・分別回収促進 (シール掲示) ・消耗品等適正保管・使用の励行 ・機密文書の再生処理化 〔・部内ゴミ箱の削減〕	○	基準値	4,000 kg	目標達成	
		○	目標値	3,880 kg	各取組みが励行されている中で、今年度は特に各部署でのゴミ箱の削減(撤去)が、目標達成に大きく寄与したと推定。社員の価値観共有化の一つの形であり、良好な傾向と評価している。	
		○	削減比	-3%		
		○	実績値	3,518		
		○	削減比	-12%		
	○	-	-			
	廃棄物排出量削減	<b>コピー紙の使用量削減</b> ・再生紙利用の明示化 ・プロジェクターによるペーパーレス化 ・スキャナー・PDFの有効利用	○	基準値	5,257 kg	目標未達成
			○	目標値	5,099 kg	僅かに目標値には届かなかったものの、基準年の実績は下回った。業務量変動の影響が大きい項目であるが、裏紙使用、ペーパーレス化は着実に推進されており、今後もこれらを重点取組みとする。
			○	削減比	-3%	
			○	実績値	5,168 kg	
○			削減比	-2%		
○	-	-				
廃棄物排出量削減	<b>廃プラスチック</b> ・分別回収によるリサイクル化促進 ・使い捨て製品の使用や購入を抑制 ・溶接棒包装のリサイクル化 ・業務外PETボトル廃棄禁止	○	基準値	968 kg	目標達成	
		○	目標値	755 kg	前年度は大幅に目標を達成できたこともあり、今年度は更に目標を上げたが、ほぼ目標値に到達した。 本項目は、購入物品に付属するものが多く、グリーン購入と連動した取組を推進する。	
		○	削減比	-22%		
		◎	実績値	758 kg		
		○	削減比	-22%		
○	-	-				

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達



主な取組み計画 〔 〕内、今年度新たな取組み			達成状況		評価(結果と今後の取組み)
廃棄物排出量削減	4	<b>産業廃棄物の削減とリサイクルの促進</b>	基準値	70.7 ton	目標未達成 前年度実績(89ton)は下回ったが、目標には届かなかった。顧客仕様の制約から、発生自体の抑制は不可避であるが、各取組みの成果は認められる。次年度より、従来から検討してきた廃液の再利用方法を具体化し、発生量削減を目指す。
		<b>酸洗浄廃液の削減</b>	目標値	67.8 ton	
		・適正使用の励行(過剰使用の抑制)	削減比	-4%	
		・酸洗浄対象機器の仕様見直	実績値	74.4 ton	
		・代替方法の検討	増加比	5%	
〔酸洗廃液処理法の調査〕		-	-		
節水	1	<b>水道水・工業用水の削減</b>	基準値	12,540 m <sup>3</sup>	目標達成 活動開始後、継続して大幅削減を達成していることから、今年度も大幅削減を目指した。今後は、従来の取組みのみに頼ることなく、給水設備等の抜本的改善も視野に入れた取組みにも着手する。
		・小まめな節水運動	目標値	9,283 m <sup>3</sup>	
		・給水設備の保守点検	削減比	-26%	
		・配管の定期監視	実績値	8,408 m <sup>3</sup>	
		・大量消費用途の改善	削減比	-33%	
・テスト用水の再利用化計画					
化学物質の削減・管理	1	<b>化学物質の削減・管理</b>	基準値	240 L	目標達成 業態から化学物質の使用は少ないが、製作工程におけるトレーサビリティ確保のための識別表示を消去する段階で溶剤を使用する。今年度はこの削減に取り組んだ。今後も各取組みを継続し、削減・管理をさらに強化する。
		・化学物質管理者会議の設置と運営	目標値	224 L	
		・使用化学物質の把握・記録・管理	削減比	-6.7%	
		・パトロールの実施	実績値	192 L	
		・排水等の測定・監視	削減比	-20%	
・漏えい事故時の対策・訓練実施					
・汚染防止のための作業改善					
・リスクアセスメントの実施を全社展開					
環境に資する製品	1	<b>製品における環境配慮推進</b>	目標値	73以上	目標達成 設計段階における環境配慮の程度を、定量化して評価する取組みを展開している。今後も継続するとともに、当社製品、技術による本業でのより積極的な貢献を目指す。
		・『環境配慮スコアー表』運用	実績値	80%	
		・省エネ設計推進		AVE78	
・発明考案表彰の省エネ設計推奨					
・環境機器の拡販					
グリーン購入	1	<b>グリーン購入</b>	都度実施		目標達成 グリーン調達は、対応可能な物品から積極的に取り組んでいる。今年度はかねてから計画していた電気自動車を導入し、ユニホームの変更を行った。今後もグリーン調達を継続する。
		・事務用品のグリーン調達	導入済み		
		〔電気自動車導入〕	変更済み		
〔ユニホームをエコマーク付に変更〕					

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達



### 3. 環境活動の評価

3-2. 南山田工場

勝率(目標達成率) 0.57 4勝3敗 (7項目中 3項目未達)

主な取組み計画			達成状況		評価(結果と今後の取組み)		
二酸化炭素排出量削減	1	<b>電力の削減</b> ・節電活動展開の徹底 ・待機電力の削減 ・設備の空運転削減	◎	基準値	77.7 ton-CO <sub>2</sub>	目標達成 工場全員で身近な節電運動に取り組んだ。結果として、工場稼働率が上昇した中で、目標値を大きく上回る成果が得られた。今後も各取組みを継続する。	
			○	目標値	75.4 ton-CO <sub>2</sub>		
			○	削減比	-3%		
			○	実績値	56.0 ton-CO <sub>2</sub>		
					削減比	-28%	
	2	<b>自動車燃料の削減</b> ・エコドライブ運動の展開 ・乗り合せ運動の展開(人・物) ・車輦定期点検の実施	○	基準値	6.3 ton-CO <sub>2</sub>	目標達成 目標達成は厳しいと想定していたが、目標を大きく上回る削減を達成した。年間を通しての日々の小さな成果の積重ねが寄与したものと評価する。	
			◎	目標値	6.1 ton-CO <sub>2</sub>		
			◎	削減比	-3%		
			◎	実績値	5.5 ton-CO <sub>2</sub>		
				削減比	-13%		
3	<b>都市ガスの削減</b> ・真空乾燥炉稼働率向上 〔・月初工程会議の徹底〕 ・送風機インバーターの管理データ活用 ・ガスバーナー保守点検の実施	△	基準値	113.7 ton-CO <sub>2</sub>	目標未達成 重油炉からガス(LNG)炉に転換しており、本工程からのCO <sub>2</sub> 排出自体は大幅に削減できているが、年央以降の増産に伴い、ガス使用量については、基準値を上回る結果となった。		
		○	目標値	110.2 ton-CO <sub>2</sub>			
		△	削減比	-3%			
		○	実績値	146.5 ton-CO <sub>2</sub>			
				削減比	29%		
廃棄物排出量削減	1	<b>一般廃棄物の削減とリサイクルの促進</b> ・分別回収の促進 ・集積場所の見直し ・分別回収によるリサイクル化促進 ・発泡スチロール・プラスチック	○	基準値	2,719 kg	目標未達成 3S活動推進の過程で、長期保管物等を一括処分した結果、スポット的に13,200kgの廃棄物が発生。これらを除く通常の廃棄物は、3,348kgで目標の2,673kgに対して+26%となる。	
			○	目標値	2,665 kg		
			○	削減比	-2%		
			○	実績値	16,548 kg		
					増加比	509%	
	2	<b>コピー紙の使用量削減</b> ・社内文書の裏面使用・両面コピーの徹底 ・プロジェクター使用によるペーパーレス化 ・ミスコピーの防止	◎	基準値	301 kg	目標達成 日常事務における取組みを積重ねた結果、目標は達成できた。本取組みは定着してきているので、さらなる削減に努める。	
			○	目標値	292 kg		
			○	削減比	-3%		
			○	実績値	263 kg		
				削減比	-13%		
3	<b>廃プラスチック</b> ・分別回収によるリサイクル化促進 ・使い捨て製品の使用や購入を抑制 ・溶接棒包装のリサイクル化 ・業務外PETボトル廃棄禁止	○	基準値	35 kg	目標未達成 元々排出量自体が少なく、僅かな変動が実績値に影響するが、量の過多にかかわらず、今後も本取組みを継続する。		
		△	目標値	34 kg			
		○	削減比	-2%			
		○	実績値	48 kg			
				増加比	38%		
節水	1	<b>水道水・工業用水の削減</b> ・節水運動の呼びかけ ・溶接機冷却水設備の点検 ・節水コマの取り付け	◎	基準値	1,500 m <sup>3</sup>	目標達成 基準年の0.5ヶ月分の削減を目指した。結果として、約2ヶ月分相当量を削減を達成した。各取組みの相乗効果によるものと評価しており、今後も継続し、さらなる削減を目指す。	
			◎	目標値	1,455 m <sup>3</sup>		
			○	削減比	-3%		
			○	実績値	1,280 m <sup>3</sup>		
				削減比	-15%		

2010

取組み手段ごとの評価: ◎:十分成果があった ○:概ね成果があった △:一部未達



### 3-3. 東京営業所

所員6名の小さな所帯ですが、全サイトにおける環境活動の展開方針に基づき、廃棄物とコピー紙の削減を活動項目に設定して、所員全員で取り組んでいます。今年度の達成状況は1勝1敗です。

### 3-4. 滋賀工場

常勤者が不在につき、本社・工場の環境管理責任者が、南山田工場の支援を得ながら、環境側面での施設管理等を行なうとともに、スポット的に本工場を使用する者に対して、環境活動についての教育、指導を行なっています。

## 4. 活動事例 トピックス

太陽光発電設置を安定運転



節電は日々の積み重ね



電気自動車導入



E3燃料



構内緑化/生物多様性の保全



環境に有害な化学物質管理の推進



緊急事態 全社避難訓練の実施



環境教育と啓蒙活動 社内



社会貢献活動

地域社会奉仕活動(クリーン大阪)



南山田工場での清掃活動



## 5. 代表者の見直し

年度末に、社長に「代表者の見直し」として、環境管理責任者から【表-5】の各情報をインプットし、同表に記載するアウトプットがありました。アウトプットのあった各事項は、2011年度活動に反映しています。

【表-5】代表者の見直し

インプット情報		
インプット事項	概要	管理責任者の提案等
システム運用に係る評価	環境への取組みの自己チェックでは、'07年の開始時195/524(37%)が、今年度期では336/464(72%)へと着実に改善する等、システムは有効に機能している。	1. 環境方針 現方針を堅持する。
環境目標・計画の達成状況 環境関連法規等の順守状況	本レポート該当項目記載どおり 本レポート該当項目記載どおり	2. 環境目標・計画 1) 東日本大震災に起因する電力リスクを低減するために、安全衛生には最大限の配慮をしつつ、節電を強力に進める。 2) 中期経営計画と連動して、当社の製品・技術による環境面での社会貢献を確実に推進する。
是正及び予防処置の状況	3か月連続して各月の目標未達項目の推進責任者には、是正処置指示書を発行し挽回に努めた。また全社的に各面でのリスクアセスメントを実施し、予防に努めた。	3. システムの各要素 ISO9001との類似システムについては統合化等を推進し、システムのスリム化及び運用の迅速化並びにリスクマネジメントへの反映を図る。また、外部機関との連携を強化する。
内部監査の結果	今年度もCSR監査の一環として、環境活動の重要性及び各自の役割についての認識をテーマに監査した結果、良好であることを確認した。	
周囲の変化の状況	東日本大震災発生を契機に、環境汚染、エネルギー供給リスクが極めて増大している。	



### 代表者のアウトプット

- 環境方針  
現在の方針を継続する。
- 環境目標・活動計画
  - 当社環境対応製品/技術の新規開発及び既存製品の省エネ、長寿命化を計画的に推進する。
  - 昨今の社会情勢に鑑み、省エネには最大限の取組みをする。
- システムの各要素  
環境におけるリスクマネジメントの強化及び外部の環境関連機関/組織との連携強化を図る。

## 6. 環境関連法規制等の順守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

※東京営業所は全て該当せず

適用される法規制	適用される施設、毎年必要な報告等	本社・工場	南山田工場	滋賀工場
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○	○	○
騒音・振動規制法	ベンディングマシン、空気圧縮機、送風機、機械プレス等	○	○	該当せず
消防法	少量危険物取扱所、屋内貯蔵所	○	○	該当せず
下水道法	酸による表面処理施設	○	○	該当せず
高圧ガス保安法	液化窒素貯槽、高圧ガス容器貯蔵所	○	○	該当せず
労働安全衛生法	有機溶剤中毒予防規則、粉じん障害防止規則に係る作業	○	○	該当せず
電気事業法	自家用電気工作物	○	○	○
PCB特別措置法	PCB含有コンデンサ(微量含有は環産産第040217005号による)	微量○	該当せず	○
浄化槽法	浄化槽	該当せず	○	○



環境関連法規制等の順守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。また、過去3年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。